

# 今年度の見どころ



向野池遺跡から出土した瓦塔  
(発掘調査時の写真、富山市HPより)



開ヶ丘遺跡大型住居跡の柱穴  
(発掘調査時の写真、富山市HPより)



杉谷4号墳・四隅突出型古墳  
(富山大学医科薬学部構内)



入口付近から見た王塚古墳



山中にひっそり佇む勅使塚



一直線に並ぶ饅頭型の5ツ塚



各願寺の山門



石仏の厄除大師が祀られる六角堂



富山市天文台

(切り取り線)

郵便はがき

930-0134

50円切手をお貼り下さい

富山市呉羽町 5010-12  
 山口 五十一 行  
 実行委員会事務局



古洞の湯



どんぐり橋から見た古洞の池

主催／呉羽山観光協会・「旧北陸街道を歩く」実行委員会  
 共催／北日本新聞社  
 後援／富山市・富山商工会議所・富山市北商工会・呉羽懇話会・五福、桜谷、呉羽、長岡、寒江、老田、古沢、池多各自治振興会及び各ふるさとづくり推進協議会

呉羽山観光協会・「旧北陸街道を歩く」実行委員会

## 第5回歴史探訪歩行会 古墳に魅せられて

# 呉羽丘陵南北縦走

## 参加者募集



あいさつ

呉羽山観光協会「旧北陸街道を歩く」  
 実行委員会 会長 田畑 宏 継

呉羽山観光協会では、平成19年12月に実行委員会を組織し、地域の文化に触れることにより次世代へ歴史の継承と地域の連携に繋がればとの思いから、旧北陸街道及び呉羽丘陵南北縦走の歴史探訪歩行会を行ったところであります。

この歴史探訪歩行会は、地域に住む人、働く人など多くの方々に参加し、計画から準備、実践までを行っているもので、今年5回目を迎えます。このことから参加される方は、地域の人をはじめ県内の各方面から集まれ、そして各見どころで解説を聞き新たな発見をされているところであります。

今年度は、呉羽丘陵の池多地区から婦中町古里地区にかけての国指定史跡の王塚古墳や各願寺、自然公園、県民公園の野鳥の園、富山市天文台、自然活用村など自然豊かな山中を巡るものであります。

呉羽丘陵周辺に住む私たちにとっては、身近な名所旧跡であります。各々が関係した事などを知る良きチャンスでもあります。ぜひ多くの方々の参加を頂き呉羽丘陵が古墳時代から現代に至る間、地域の生活とどのように関わってきたかを体感して頂きたいものと考えております。ただし当日は、呉羽カントリーで「北陸オープンゴルフトーナメント」の決勝ラウンドが開催されておりますので、歩行コースが若干変更になるかも知れませんが是非ご参加を頂きますようお願いしております。

最後に、今回の歩行会実施にあたりまして池多地区や古里地区の自治振興会をはじめ多くの方々からご支援、ご協力を賜り厚くお礼を申し上げます、挨拶といたします。

### 歩行会開催内容

と き	平成24年7月21日(土)	申込方法	添付ハガキに記入し、切手(50円)貼り投函して下さい
歩行区間	古洞の森・大駐車場(下側)～王塚古墳～六角堂～各願寺～勅使塚～五ツ塚～野鳥の園(ドングリ橋)～富山市天文台～古洞の湯～古洞の森・大駐車場(下側)(歩行距離約6.3Km)	申込期間	平成24年7月1日より8日まで
集合・受付場所	とやま古洞の森・大駐車場(下側) 富山市三の熊(北陸自動車道「富山西インター」より車で5分)	参加者へ	平成24年7月15日ごろまでハガキにて案内します
参加費	1,000円/人(18歳以上の方のみ) 当日受付にて集金します	注意事項	①当日は小雨でも行いますが、雨天の場合は中止となります(問合せは、富山観光ホテルまでお願いします) 電話076-431-5111 富山市呉羽町7538番地
受付時間	午前8時30分～9時まで		②歩行会に相応しい服装(帽子・靴、手袋)で願います
スタート時間	午前9時30分頃		③歩行コースは山林地帯にありますので狭い上り・下りなどがあります
所要時間	歩行時間 約2時間30分 説明時間(6カ所) 30分		
募集人数	約300名		
おみやげ	歩行コースガイド、飲料水、地場産野菜、豚汁、古洞の湯入浴割引券		

問合せ先

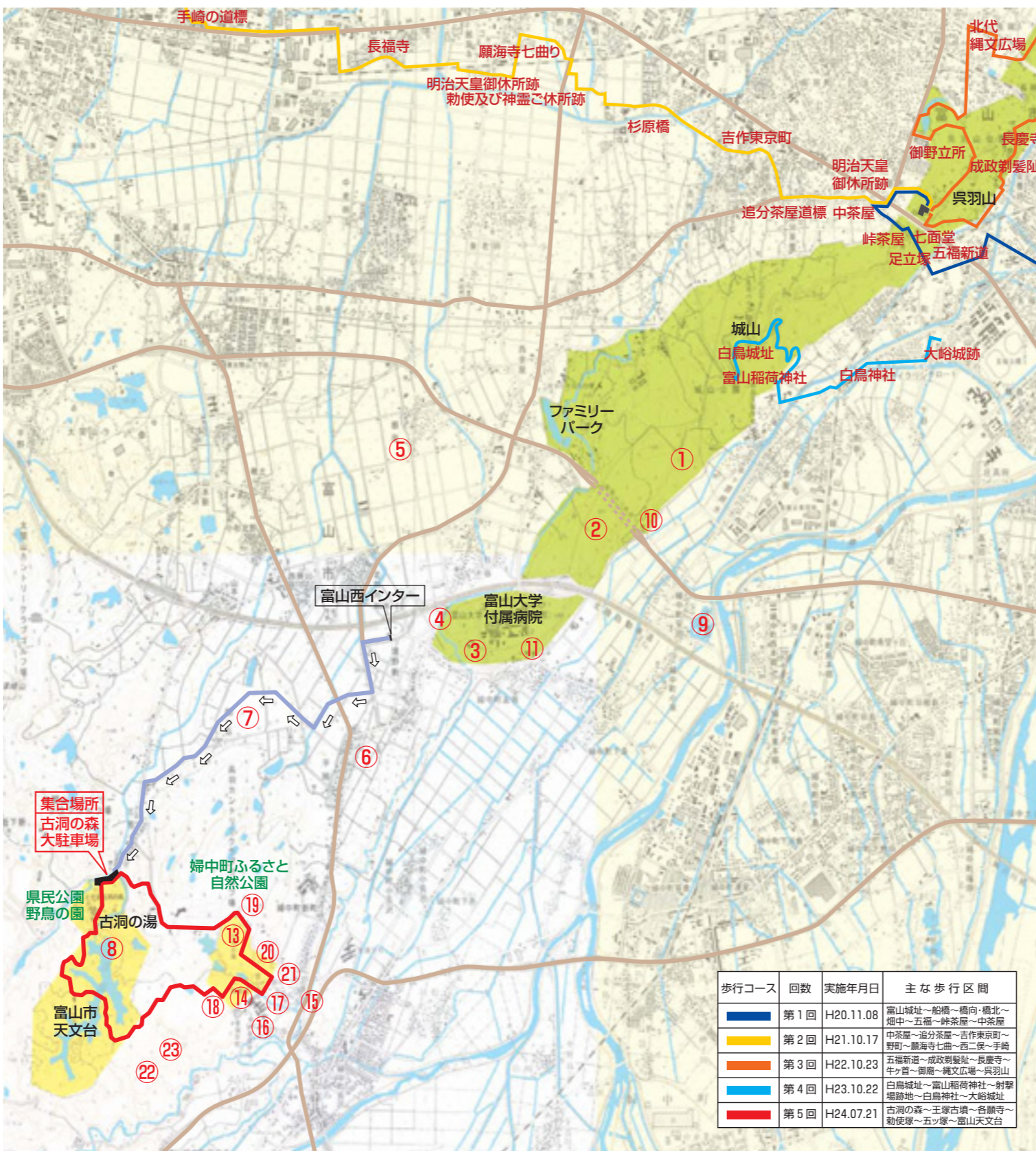
富山観光ホテル TEL 076-431-5551  
 「旧北陸街道を歩く」実行委員会事務局(山口) TEL 076-436-0611

# 呉羽丘陵南側一帯見どころ表 (第5回歩行会)

No名称	場所	見どころ解説
呉羽丘陵とその南側丘陵		呉羽丘陵は、富山県の中央部で富山平野を二分するように南西から北東方向に走り、北は百塚で平野部に突入し、南は池多で飛騨山系と繋がっている。約8kmの長さで、城山(145.3m)、呉羽山(71.3m)、八ヶ山(35.0m)の三つのピークを持つ。呉羽丘陵を境にして呉西、呉東と云う呼び名が残るように方言や風俗など文化の面で異なる事が指摘されている。丘陵や裾野には数多くの遺跡が分布しており中でも、境野新遺跡(旧石器時代のナイフ形剥片)、杉谷古墳群(四隅突出墳)、さらには城山の白鳥城跡で戦国時代の遺構の下から高酸性集落の跡が発見されている。そのほか蛸が森貝塚、小竹貝塚では淡水性貝殻が発見され放生津漏が迫っていた事が明らかになっている。また、呉羽丘陵から南に続く丘陵部では国の史跡指定を受けている「王塚・千坊山遺跡群」や長沢城跡、富崎城跡、高山城跡など山城跡が点在している。このように呉羽丘陵一帯では、古くから人が住んでいたことが明らかで現存も市民生活と深い関わりを持つ地域として多くが都市計画公園、県民公園、自然公園として保全されている。
① 呉羽山古墳群列	金屋・杉谷	呉羽丘陵一帯は、北端の百塚遺跡から南側境野新、開ヶ丘、富崎墳墓群まで多くの遺跡や古墳が確認されている。なかでも金屋から杉谷の東斜面に集中して墳丘の主軸を方位に合わせた古墳発生期(土器が出土)の方墳系古墳群が並んでいる。
② 古沢山古墳塚	古沢	県道富山小杉線のトンネル山頂部にある前方後円墳で前方は長さ16m、幅11m、後円は直径25mの大きさである。この古墳は、富山県にある前方後円墳の東端と云われ、周囲に前方後方墳(王塚古墳、杉谷一番塚)や四隅突出型古墳(杉谷古墳群)などがある。
③ 杉谷古墳群	杉谷	富山大学の医薬学部、病院などがある敷地内に7基の古墳と1遺跡がある。これらの古墳群からガラス小玉、素環頭大刀、銅、鉄などが出土し古墳時代の権力者の墓であったと云われている。また形では、四隅突出型古墳(4号墳、一辺が25m)と云う出雲を中心に日本海沿岸に散在する古墳があり、古事記や出雲風土記に出てくる出雲と越の国の交流がうかがえる。他に前方後方墳(一番塚)などがある。
④ 境野新及び向野池遺跡	境野新	富山西インターチェンジ及び企業団地周辺に境野新遺跡及び向野池遺跡がある。境野新遺跡は、昭和47年の発掘調査で古墳時代の竪穴住居が見つかり、現在遺跡公園として整備されている。その後平成12年調査で南北に横切る大小の溝や、穴を検出し、溝の中から旧石器時代のナイフ形石器、剥片や縄文土器、石錘などが出土した。また石器を作るための原石も発見されており、この地で製作されていたものと想定されている。向野池遺跡は、昭和47年調査で平安時代の土師器焼成坑4基、井戸3基、大型建物を含む掘立柱建物15棟以上、製炭土坑などが見つかり、甕や鍋などの日常容器とともに、瓦塔(仏具)が出土した。その後平成12年度と18年度に調査が行われ旧石器時代の尖頭器や縄文時代の打製石斧、竪穴住居、弥生時代の竪穴住居、平安時代の掘立柱建物などが発見された。両遺跡では、旧石器時代の西と東の技法で製作された石器が見つかっており東西旧石器文化の交流がうかがえる。
⑤ 栃谷遺跡	栃谷	栃谷集落の周辺に広がる水田中央部に栃谷南遺跡がある。平成10年度調査で白鳳時代末から奈良時代前半(約1300年前)にかけての須恵器の窯跡1基と、須恵器と瓦を焼いた窯跡(瓦陶兼業窯)1基、建物の柱穴跡、粘土を掘り出した採掘穴、井戸跡が発見された。出土した瓦類は、数千点(軒丸瓦・丸瓦・平瓦)および、「単弁八葉蓮華文軒丸瓦」や同じ范(木版に文様を刻んだ型)を用いて作った軒丸瓦、そして凸面を縄巻いた板でたたいて形づく「桶巻作り」という平瓦で粘土の採掘から土器や瓦を焼成するまで一連の作業を行う生産工房であったと想定されている。その他、「対葉花文の透彫り」木製品(東大寺が造営された頃の仏像台座などの文様)と「鐘鈴」(鐘状の銅製品)も発見された。これらは、古代仏教に関連する遺物で出土した瓦の特徴からも、近くの寺院や官衙(役所)へ供給していたと思われる。
⑥ 平岡遺跡	平岡	県道八尾小杉線そいの標高約60mの丘陵上に平岡遺跡がある。昭和26年発行の森秀雄著「大昔の富山県」にも記載されており、古くから縄文時代前期後葉(5,500年前)の遺跡として知られている。遺物は石鏃・石錐・石匙などが多く、中でも石鏃は、県下で最多の出土数とされ、滑石や蛇紋岩を使ったけつ状耳飾や管玉など装飾品も採集されている。平成21年度の試掘調査では、縄文時代前期の遺構の上に、奈良・平安時代の遺構が確認されている。
⑦ 開ヶ丘遺跡と新しい農村住宅	開ヶ丘	呉羽カントリー北側の開けた畑地一帯に開ヶ丘遺跡がある。平成13年度より調査が行われ、縄文時代や奈良から平安時代の人々が生活を営んでいた住居跡などが発見された。平成13年度調査で竪穴住居4棟と石組炉が検出され縄文土器や土偶の一部、石斧、矢じり、石さじ、黒曜石の剥片などが大量に出土した。平成14～15年度の発掘調査では、縄文時代中期の竪穴住居75棟、掘立柱建物6棟などが確認された。竪穴住居内から多量の道具類が出土した。さらに土偶や三角とう形土製品など呪術に関係する道具、耳たぶに孔をあけて着ける耳飾りや琥珀・滑石で作った玉など、当時の人々が身に着けた装身具も見つかっている。遺跡の周辺には湧水地があり、当時の人々にとって大変暮らしやすい土地で幾世代にもわたって住んでいたものと思われる。現在は優良田園住宅建設計画の認定(「優良田園住宅の建設の促進に関する法律」(平成10年7月施行))を受け新たな農村住宅地と市民農園になっている。
⑧ 古洞の森	三の熊	富山市三熊に県民公園「野鳥の園」がある。「野鳥の園」は、富山県置県百年を記念して農業用水用ダム、古洞の池の周辺約73haを野鳥の保護と自然の探勝を目的に整備したものである。園内には野鳥の観察や自然散策のできる歩道が設けられており、四季を通じ、多くの鳥や樹木の花や実などを観察することができる。また富山市自然活用村「古洞の湯」や天文台があり宿泊しながら農業や天体観察などが体験できる。
⑨ 安田城址	安田	天正13年(1585)豊臣秀吉が佐々成政を討つため白鳥城に陣を張った時、その支城として名が出てくる。成政降伏後も前田家の前線拠点として使われ、やがて前田利長が富山城主になると役目も薄れ慶長年間に廃城されたことと云われている。現在城郭の濠や土塁が復元され昭和56年国の史跡に指定された。その後、展示場も建設されている。

No名称	場所	見どころ解説
⑩ 朝日の滝	安田	県道富山小杉線が呉羽丘陵を横断するトンネルの入り口、北側に朝日の滝がある。この滝は、立山の御来光が当たる霊験あらたかな場所にあり、難病であるハンセン病を治したと伝えられている。全国から滝に打たれに来る者が大勢あり、江戸時代に茶店や旅館もあって大変賑わったところである。境内にはお堂があり阿弥陀如来、薬師如来、不動明王、寶頭蓋者の4体が祀られ、また大きな樺の木が生い茂っている。
⑪ 熊野神社	婦中友坂	富山大学付属病院裏の県道を下ると熊野神社がある。由来は、「創建が大宝2年(702)とされ出雲の国幣大社、熊野神社系統で、そもそも北陸一帯が出兵族によって開拓された事による」と伝えられている。杉谷古墳群と併せて出雲とのつながりの強い事がうなずける。
⑫ 千坊山遺跡群	新町	井田川・山田川流域の扇状地と、呉羽山丘陵南側にあたる羽根丘陵、富崎丘陵に弥生時代後期から古墳時代前期の集落、墳丘墓、古墳が群をなし分布している。古墳出現期の動向が集落と墓地の両面から追える貴重な遺跡群で、かつ日本海沿岸交流を示唆する四隅突出型墳丘墓もある事から歴史的

No名称	場所	見どころ解説
		に高く評価され平成17年3月2日、史跡王塚古墳(昭和23年指定)に6遺跡が追加指定され、名称が変更された。遺跡群には、越中を代表する前方後方墳の王塚古墳・勅使塚古墳、分布域の東限である四隅突出型墳丘墓4基(2箇所)、前方後方墳への過渡期の墳丘形態を示す前方後方墳墳丘墓が1基、首長に繋がる系譜の集団と考えられる千坊山遺跡の弥生集落、首長を支えた層の墓地と推測される富崎千里古墳群がある。
⑬ 王塚古墳	新町	「かんぼの宿・富山」の入口に国の史跡、王塚・千坊山遺跡群の代表格である王塚古墳がある。約1700年前の古墳時代前期の前方後方墳で全長58mの大型の古墳(県内で4番目の規模)で後方は、長さ31m、幅33m、頂部の高さ7.6m。前方部は長さ27m、幅26m、くびれ部の幅15m、高さ後方は5mと大きく差があり前期古墳の特徴を持っている。被葬者は、婦房地域を統治した首長と推定されているが、各願寺の開闢佛性聖人もも伝わり石碑が建っている。内部施設や副葬品などの存在が確認されていないが、墳丘形態から勅使塚古墳築造直後に造られたものと考えられる。昭和23年に国の史跡指定を受ける。



No名称	場所	見どころ解説
⑭ 勅使塚古墳	新町	国の史跡指定を受ける王塚・千坊山遺跡群の一つで王塚古墳より南西側500m、谷を挟んだ山中にある。県内最古の前方後方墳で、かつ全長66mで県内第2位の規模を誇っている。後方は、長さ35m、幅37m、頂部の高さ9m。前方部は長さ31m、幅24m、高さ3.5m、くびれ部の幅11mで先端部が楔形に開くなど前期古墳の特徴を残している。また後方の中央に長方形の墓坑(長さ6.2m、幅6.1m)が確認され木棺が安置されていると推測される郭の痕跡がある。遺物は、3世紀末の土器(壺、高杯、蓋などの器)が発見されており墳丘頂部に供えられていたものといわれている。
⑮ 遺千跡坊山	新町	弥生時代終末期の大規模な集落遺跡で、独立した台地に24棟の竪穴住居跡が発見されている。王塚古墳・勅使塚古墳との地理的關係などから古墳時代の首長が生まれ出した集団の集落と推測され、背後の丘陵縁辺部にある六治古塚墳墓・向野塚墳墓・添ノ山古墳(消失)の3基の墓も、この集落が築いたと考えられている。
⑯ 六塚六治墓古	新町	弥生時代終末期に築かれた四隅突出型墳丘墓で河岸段丘南縁辺部に立地し、南方の谷に辺呂川が流れている。一辺24.5m、高さ5.1mと大型で、突出部は長さ7.2m、幅10.6m。墳丘周囲の丘陵側に溝が巡っている。居住域は平野側にある千坊山遺跡と考えられている。
⑰ 墳向野塚	新町	弥生時代終末期から古墳時代初頭に築かれた県内最古の前方後方墳墳丘墓である。六治古塚墳墓の110m北東に位置し、全長25.2m。前方部は長さ10.2m、幅8.1m、後方は長さ15.0m、幅16.5m、頂部の高さ1.7m、くびれ部幅5.1mで、周溝が巡っている。遺跡群唯一の前方後方墳墳丘墓で前方後方墳への過渡期の墳丘形態。居住域は、六治古塚墳墓と同じ千坊山遺跡と考えられている。
⑱ 五ツ塚	新町	「勅使塚」より南200mの山中に、ひっそり饅頭型をした塚が5基、南北に列して並んでいる。約600年前の建武年間、各願寺(北叡山と号す)が北陸に勢力を伸ばしてきた比叡山と勢力争いを起こしていた頃、時の帝が両者を諷めるために度々勅使を遣わされていた。しかし争いは収まらず、やがて一帯が焦土と化す事態となった。その時の勅使に随伴していた京人5人を葬った塚と伝えられている。
⑲ ふるさと自然公園	新町	呉羽カントリーやかんぼの宿・富山に隣接した丘陵一帯(278ha)が県の指定を受けた「ふるさと自然公園」となっている。付近一帯は羽根山と称され、8世紀初頭に開基された各願寺や国の史跡指定を受けた「王塚」・「勅使塚」・「五ツ塚」などの古墳があり歴史豊かで、かつ立山連峰も眺められる風光明媚なところである。公園内は管理等の「ふるさと創生会館」や大池、中池を中心に四季を通じて菖蒲の花やザゼンソウ、ミスバショウ等が楽しめます。また隣接する古洞池や史跡長沢城跡などへも行ける遊歩道が整備されており森林浴に多くの人が訪れている。また一角に「六角堂」「馬頭観世音碑」等が置かれている。
⑳ 六角堂及び馬頭観世音像	新町	ふるさと自然公園の東面の頂きに立山連峰と対峙するかのよう「六角堂」が建っている。明治42年、各願寺の秀泰住職がアメリカに移民する同胞のため、船旅の安全と真言宗の布教を祈願し創建したもので厄除大師の石仏が祀られている。また周囲に西国33カ所の観世音菩薩の石仏が安置された日露戦争で戦死した兵を弔うもので門信徒の方々から寄進されたものである。また建物も「ふるさと自然公園」に指定された時、門信徒や地区の有志が浄財を集めて新しく建立した。また六角堂から下ると「馬頭観世音菩薩」と「鎮魂碑」の石碑が並んで立っている。馬頭観世音像は、大正11年古里荷馬車組合が馬の供養と安全を祈願して県道沿いに建立したもので道路改良に合わせたもので地へ移転した。横に立つ「鎮魂碑」は婦中町畜産協議会が53年12月に建立したもので、数多く贈した家畜の霊を慰めるものである。
㉑ 北叡山各願寺	新町	「婦中町ふるさと自然公園」の東側入口に各願寺がある。この各願寺は、大宝年間(701～703)文武天皇の勅命により佛性聖人(天武天皇第7皇子、自信院一品親王)が帝勅勸願所として創建された。法燈榮光しころは、寺坊が3千余りを有し北叡山と号し勸願を賜ったが、南北朝の建武年間(1350年)、北陸地方に勢力を伸ばしてきた京の北叡山とたびたび勢力争いを起こし、一山灰燼にあい次第に衰えた。その後秘めた幾つかの伝説を残すのみとなったが大永3年(1523)玄弘僧依の復言宗の寺として再興した。江戸時代に入り歴代富山藩主の復興御依の意を受け、特に2代藩主正甫公が度々訪れるなど再び栄え境内で曲水の宴「観桜の宴」が開かれた。しかし明治3年(1870)に合寺令により寺号を廃したが、明治11年(1878)復寺を認められ今日に至る。宗派は弘法大師を宗祖とする高野山真言宗で、御本尊は薬師如来像である。また平成元年(1988)4月16日に300年ぶりの「曲水の宴」が再現され毎年開かれるようになった。
㉒ 長沢西城跡	長沢	長沢の通称、城山(または石山)と言われる海拔130mくらいの尾根に西長沢城の跡がある。一般的に東の無常山にある長沢東城と合わせて長沢城と言っている。この城は、東の山裾を流れる辺呂川からの大手口を経て城内に入り、最も広い曲輪(井戸跡がある)から最も高いところの狼煙台に至る。城内は、三回の屈折(柵形)と土壘や平場(武者隠し)の跡が残っており堅固な備えとなっている。しかし山頂から東城及び背後地へは尾根道で広がっており他の城との連絡路であったと思われる。この城は、何時、誰が築き、どう使われたかははっきりしていないが、「越登賀三州志」「肯構泉登録」等の記録によれば、南北朝時代(14世紀中期)に構築され、その後、戦略上必要なとき一時的に使われてきたものと思われる。なかでも中院定清や桃井直和がこの地で戦を繰り広げており、また佐々成政の頃、寺崎牛助が居城していたとも伝わっている。
㉓ 長沢東城跡	長沢	長沢の通称、無常山(海拔約130m)に長沢東城址(地元では家老屋敷城址とも云う。)がある。一般的に長沢西城と合わせて長沢城と呼ばれている。この城は、長沢西城と同じく山裾を流れる辺呂川(山田川)の支流、からの登りに大手口(虎口とも云う)があり、上へ昇って曲輪(郭)がカカ所に配置され、最も高い2カ所の曲輪が本丸と二の丸跡と言われている。その後、尾根道で長沢西城と繋がり、東へ各願寺、北へ猫坂峠を経て砺波の増山城とも繋がっている。この城は、長沢西城より後に築城されたと考えられており、南にある「富崎城」を守るため、あるいは攻めるために造られたものと考えられている。